



羅

針

盤

H26.11.5

文化発表会が終わり、中学校での大きな行事は全て終わりました。合唱コンクールでは、どのクラスも1つに目標に向かって全員が団結し、素晴らしいハーモニーを聞かせていました。

進路についても、それぞれの進路先は違いますが、「自分にあった進路先を探し、その進路を実現するために全力で取り組む」ことは、誰もが同じです。体育祭や文化発表会で培った団結力を進路にも生かし、お互いに励まし合い、切磋琢磨して希望の進路を獲得してください。

就職or進学？ 普通科or商業科？ 私立or公立？

～第1回進路懇談会～

明日から第1回進路懇談会が行われます。今回は就職or進学、専願or併願or単願、普通科or専門学科など、具体的に学校名を挙げて相談させていただきたいと思います。

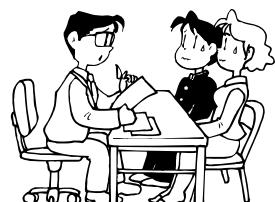
以前から言っていますが進路を考える時、目前の高校のことだけを考えていると3年後の進路選択で大きく遠回りをしなければならないことになります。考え方は、将来どのような生き方をするのか、具体的にどんな仕事に就くのか、そのためにどんな学校を選ぶのか、ということになります。

普通科の高校を卒業しただけでは何の資格も得られませんので、就職先はかなり少いようです。そのため多くの生徒は大学、短大、専門学校に進学しています。もし普通科高校を卒業してから専門学校で簿記などの商業に関する資格を取得するなら、商業科の高校で資格を取得した方がずっと近道で費用も半分以下で済みます。また専門学科の高校で資格を取り、それを生かして大学等に進学する生徒も増えてきています。

ですから少なくとも3年後どんな進路に進むのか、よく考えて高校等を選ぶ必要があると思います。

また、私学、公立前期選抜、公立後期選抜を総合的に考えてください。

よく「すばり止め」だからと言って私立の併願校をいい加減に決める人がいます。しかし万一公立高校が不合格になると、3年間その私学に通わなければなりません。私学の先生の話では「併願で入学してきた生徒の中に、成績が優秀なのに『学校に合わない』と言って7月までに退学する生徒が毎年いる」ということです。併願校も必ず体験入学等に参加し、「3年間がんばれる」と確信できる学校を選んでください。



学習塾ではぎりぎりで合格できる学校に進学を勧める傾向にあります。しかし、高校ではそのクラスの中くらいの学力の生徒を対象に授業を進められることが多く、また成績が周りに比べて低いと、モチベーションが下がってしまう生徒が多いようです。従って合格の可能性については、過去のデータからその高校・コースで中くらい以上の成績が維持できることを一つの目安として、お話しさせていただきます。

申込は高校等に入学してから

～大阪市奨学費～

大阪市教育委員会から「大阪市奨学費の募集について」の通知が来ましたので、今日配布しています。

平成26年度(現高1)から、大阪府より「奨学のための給付金」が支給されるようになりました(資格要件あり)。その関係で「大阪市奨学費」の申し込みは、高校等に入学してから高校を通じてすることになりました。申し込みは6月頃の予定です。学習資金とは別に入学資金も支給されますが、支給は7月以降となりますので、それまでのつなぎの資金を準備する必要があります。

- ① 対象：高等専門学校、高等学校(定時制、通信制を含む)他府県の高校も対象
特別支援学校と専修学校等は対象外(技能連携の通信制高校は対象)
- ② 資格：市民税非課税世帯
生活保護世帯は保護費の1つとして「高等学校等就学費」が支給されるので、この奨学費に応募できません。
- ③ 給付額：入学資金35,000円以内、学習資金年額72,000円以内(給付)
大阪府「奨学のための給付金」も受給する場合は併給調整が行われ、減額または支給されない事もあります。

定時制用の問題に

～大阪市立中央高校～

大阪市立中央高校(昼夜間定時制)の入試制度が少し変わります。

平成26年度までの学力検査は公立後期選抜の普通科・クリエイティブスクール用のA問題を使い、70点×3科=210点満点でした。評定は10点×2倍×9科=180点満点で、合計390点満点でした。

平成27年度(現中3)の学力検査は定時制用の問題を使い、50点×3科=150点満点となります。評定も10点×1倍×9科=90点満点で、計240点満点となります。